

「タイタニック・ポーカー」

はせ ひろこ

◆登場人物◆

- 男1 (車椅子の乗客)
- 男2 (研究者／乗務員・給仕長)
- 男3 (一等船室乗客・財閥の若手社長)
- 男4 (二等船室乗客・元詐欺師)
- 男5 (三等船室乗客・少年)
- 男6 (一等航海士)
- 女1 (研究員)
- 女2 (乗務員・給仕)
- 女3 (一等船室乗客・マダム)
- 女4 (一等船室乗客・令嬢)
- 女5 (乗務員・バンド付きの歌手)

【SCENE / 1】 20××年4月。某豪華客船内の談話室。

奥に出入り口。古風な衣装を身に纏った車椅子の男が一人、壁のダ
ーツ盤に向かってている。

男1 闇よりも深い海底へ。絶望よりも重い朝の光へ。

一本のダーツを投じる男1。「n」に当る。止まっていた時間が動
き出す。古風な給仕長の衣装を身に着けた男2。部屋に入り、アル
コール携帯用の金属製小瓶(以下フラスコ)を取り出す。人の気配
を感じ、飲もうとする仕草を止め、胸ポケットに戻す。やがて、こ
ちらは現代風衣装の女1。

女1 ……じゃあ諮問委員会の方はロドの案でいいとして、マスコミ対策は

どうなってるんです？ いくら何でもどこから漏れるでしょ？ 出土
の映像は押さえられてるんだから。

男2 ……だから出土は可笑しいって。

女1 ああ、すいません。

男2 ま、確かにある種の考古学に違いはないけど……まだ半年前の発掘仲
間が忘れられない？

女1 先生……

男2 失礼失礼、固執するのも嫌味だよ。

女1 ……不評ですよ。

男2 えっ？

女1 その給仕係の衣装。

男2 失礼な。ココにラインが入ってるでしょ？ これこそ「船上のギャル
ソン」とまで呼ばれた幻の給仕長・デニス・コールマンのレプリカなんだ
から。勉強不足だよ。

女1 研究者とオタクの区別は付けていますので。どうせ全員に「幻」つ
て修飾語が付くんですよ。

男2 まあ……いないからなあ……

女1 とにかく役員が来る会議にまでコスプレで出席しないで下さい。いろ
いろ混乱しますの。

男2 やっぱ船長か航海士の方がよかったか。

女1 そういう話でなく……

男2 子供たちには大受けなんだけどな……

女1 それは見学者が、あなたがココの館長兼任の研究チーフではなく、た
だの案内係のバイトと思ってるからでしょ？

男2 お偉いさん達、ムース食べてった？

女1 3人以外は口も付けず、残ってました。

男2 何でだよ。当事を偲んで徹夜で復元したのに……

女1 ……また、ココですか？

男2 うん……愛着かな。博物館館長兼任の特権乱用。真っ先に復元させた
この、最も観光客に人気がない部屋への。

女1 「死を顧みない部屋」ですか……

男2 20世紀の間は、人道的な見地のお陰で手が付けられなかったから。
何をしても死せる魂への配慮が邪魔をした。

女1 時代を超え不変だった、ロマンの勝利ですか？

男2 ロマンなんかどうでもいい。不変なのは知的好奇心だよ。事故の当事者はもちろん、遺族のほとんどがやっこの世に存在しなくなった。

女1 やりた放題ってことですね。

男2 まあまあ、それに人気の無い場所も時には必要だ。

女1を抱きしめキスをする男2。女1、それには従うが、さらなる行動は嫌い背を向ける。

女1 …ゴメンなさい…気分じゃなくて…

男2 うん。奇遇だなあ、僕も同意見だ。

女1 (キツつと睨む)

男2 まあまあ、結論を急ぎ過ぎるのが君の唯一の欠点だ。

背を向ける女1。男2、再びフラスコを取り出す。

男2 20世紀から細々と受け継がれてきた謎と疑惑が、今回の成果で全容を見せるかも知れない。まるでご褒美のように。氷山が一瞬、海面に飛び跳ねてみせるようにね。

机の上にフラスコをコトリと置く男1。

女1 これですか！ 船長スミスの隠匿物。

男2 レプリカだよ。

女1 もちろん。でも見るのは初めて。

男2 一昨日徹夜した。底を見て。スミスのサインもそっくりでしょ？…：…いつ寝てんだ？ 俺。

女1 この中に問題の遺書が…：

男2 スミスもまんざら馬鹿じゃなかったって事だね。密閉性、適度な重量。

100年の年月を超えて見つかるには、最大級の好条件を満たして眠っていた。

女1 (フラスコ内の紙に気づき、微笑み) これもまたレプリカですか？

男2 遺書の文面は読んだ？

女1 ええ、資料で。

男2 内容はもちろんだけど、それが隠してあったという事実が実に多くを雄弁に語っている。

女1 ええ…：…(取り出した紙切れを読んで) これは…：

男2 誕生日おめでとう。

女1 …先生…覚えていてくれただけで光栄です。

男2 あれ？

ボードに残ったダーツを不思議そうに眺める男2。

女1 スミスは何を愁いてこれを隠したのか？

男2 ねえ。

女1 それも一時を争うパニックの最中に…：

男2 ねえ、それ。

女1 …はい？…

男2 それって、刺さってたっけ。

男1 …：

女1 何です。

男2 矢だよ矢。ダーツボード。

女1 ああ…きつと見学の子供でしょ。ココ人目も無し。

男2 そう、かな。

女1 それよりどうします？ マスコミ対応。

男2 うん…：…(ダーツに背を向け)まあ、それは当面の所、ケイに任せよう。

女1 つまり…：…時間稼ぎと同時に、特番の企画をつて線ですね。次回潜水調

査のスポンサー向けのアピールも含めて。

男2 もちろんそれも含めてだけ…：

車椅子の男1、2本目のダーツを放つ。「m」に命中。音に反応し、ボードに近付き凝視する男2。

女1 …：…けど何です？

男2 …：…そうだ、数字だよ。ダーツボード。

女1 ああ、船長の遺書に並び、今回最も話題を呼んだ引き揚げリストの最

終品目。

男2 そして謎の暗号。

女1 何者かが数字を故意に傷つけた形跡があつて……えっ？

男2 「n」と「m」だったよね。

女1 ……そうです。

男2 (矢を抜きながら) 「n」、「m」…ちょうど100年の時を経て、引き上げられた遺品の数々…その最後の謎を飾る数字が、今まさにこのダーツ上に、追加して示された。

女1 まさか…

男2 ……ルース、悪いけど、僕ちよつと行つてくる。

女1 えっ？…行つて、どこに？…

男2 (矢を胸ポケットに片し、足早に去る)

女1 行つて、どこに？…

追うのを諦めダーツ盤に向かう女1。暫し眺め、車椅子用の高さが気に入らず、もつと高くに架け直してしまう女1。そしてテーブルに残っていた3本目の矢を放つ。時間の逆行が始まる。女1、その変化には気づかず去る。残された男1、念のためボードに手を伸ばすが、やはり届かない。通路奥から人の気配。

【SCENE/2】

やがて、20世紀初頭の衣装で、まずはメイド風の女2が登場。2つ並んだ丸テーブルに白いウエスを掛ける。ややあつて男3、男4。

男3 ……そもそも不吉だつて思つてたんだよね、最初から。名前自体がね。

男4 え、どういう事です？

男3 だつて、やつぱりタイタンでしょ？ 語源は？

男4 ああ、昨日伺つた例の小説ですね、何とかモーガン……

男3 モーガン・ロバートソン。

男4 ああ、そうそう。

男3 いや、それだけでなくもさあ、ほら、ギリシヤ神話？

男4 ああ。

男3 あれのタイタン族？ あれだつて政治闘争で神々の座から地位を奪

われ、復讐誓つたのに、結局ゼウス率いるオリンポスの神々に散々な目に合わされるでしょ？

男4 なるほど。…ああ、そう言えば、この船の姉妹船もオリンピック号で

したよねえ。姉妹船に滅ぼされてはなあ……

男3 そうそう。そもそも安易だよねえ。ま、ライバルの船会社がスピード売り物に人気急上昇だからね。その分、こちらは「豪華さ」しか勝負所ないからさあ。その辺も作用して…(女2に) ねえねえ、チップの追加つて君でいい？

女2 あ、すいません、私ではちよつと。

男3 あ、そう。

女2 コールマンさんは見かけませんでした？

男3 見なかったから君に言つてるんでしょ？

女2 あ、はい。すいません。

男3 いいよいいよ。まだ大丈夫だから。

男4 いやいや。5分ともたないのでは？

女2 フフン…

男4 あ…

女2 ホントにこちらで宜しかったんでしようか？

屋敷して、空気もあまりよくありませんが…

男4 大丈夫。君のせいにはしないから。

男3 そうそう。お前が気にすることじゃないさ。

女2 はあ。

男4 (コインを渡しながら) もういいよ。ありがとう。

女2 はい。ありがとうございます。

着飾つた女3、女4が登場。

女3 (女2に) ああ、飲み物をお願い。ブランデーと、あなた何にする？

女4 お酒ですか？

女3 別にいいけど、どつちでも？

女4 私シャンパンぐらいしか経験なくて……

女3 じゃあシャンパンの冷えたの適当に。

女2 畏まりました。

男3 あ、僕にはバーボンを。(男4に) どうする？

男4 私は……当分はこれで。

ポケットから携帯用の小瓶。シーン1の金属製フラスコと全く同じモノである。

男3 おやおや。それを卓上において、金属の反射で、私のカードをこっそり読もうという魂胆だな。

男4 そんな、人聞きの悪い。決して机上には出しませんので。

男3 (女2に) 君も磨ききったトレイを胸にかざして、彼のサポートをしないようにね。

言われた女給仕以外の面々、微笑みあう。

女2 あの……どういう事でしょう。

男3 ……いや、いい。

女2 はあ、すいません。

男3 コールマンさん探しておいてね。

女2 はい。見つけ次第。では、失礼します。

去る女2。女3、着ていたショールなど脱ぎながら。

女3 待たせたかしら？ メインディッシュで散々待たされちゃって。

男3 私も小一時間。ご心配なく、我々も今着いた所です。

女3 ついでにこの子連れ出すのにも若干ね……リザック家のご令嬢でサリーさん。

男3 これはこれは、お目にかかれて光栄です。

男4 以下同文で。

女3 (微笑んで) こちら、ご両親がまさに堅物でね。お邪魔は承知で社会勉強に……

女4 その……始めまして、何も知らないの……よろしく。

女3 こちら鉄道とホテル経営で成功を収めてらっしゃるジェイソン・ケリ

ーさん。社長さんね。

男3 それがなかなか。労働者ふぜいの生意気な主張がどんどんエスカレートしてましてね。二言目にはストライキで脅しやがる。ま、やりづらい時代ですよ。

女4 新聞で何度か読みました。

男3 そう。それはどうも。

女4 あ、いえ……

女3 ケリーさんの口からこの手の愚痴が出したら、慎重にね。

女4 えっ？

女3 カードの手の内が良いときのフェイクだから。

女4 へえ。

女3 それでと……あら、ラリー卿とロドリフ神父は？

男3 ああ、ラリー卿は飲み過ぎてリタイアでしょうね。ロドリフ神父は……逃げたでしょう。あの負けっぶりじゃあね。急に神への忠誠心に目覚めたんでしょね。

女3 なるほど。

男3 こちら昔からの友人でエドワード君。

女3 はじめまして。よろしく。

男4 よろしく。

男3 こちらはナン夫人。

男4 お噂はかねがね。

女3 お手柔らかに。

男3 最初にばらしておきますが、彼は今回2等船室の乗客です。

女3 あら、まあ。

男4 成り上りの従業員に切符を手配させたのが間違いでした。でも、実は私もかなりの成り上がりでして、2等船室は身分相応とも言えます。

男3 今はリパブルで怪しげなパブを3軒営んでいる。

女3 それはそれは。

男3 ついでにチクリますとね。こいつのカード捌きには細心の注意を払うべきです。

男4 ジェイソンさん……

女4 どういう事です？

男3 パブの前は、世界各国のカジノで名うてのディーラーしてましてね。

その前はプロの詐欺師だったこともある。

女3 まあ。

男4 昔の話です。既にそっちは数年前に引退してます。

男3 宜しいですか？ こんな友人ですが。

女3 私は全然構わないけど、サリーにはいきなり刺激的なお相手ね。

女4 でも、ちょっと変ですよねえ。

男3 えっ？

男4 何がでしょう。

女4 アマチュアもいるのですか？ それは詐欺師と呼べないですか？

か？

男4 ……あああ、さっきの「プロの詐欺師」？

男3 ああ、確かに変だなあ、プロの詐欺師ってのは。

女4ですよねえ。

女3 (笑って) じゃああれよねえ。この面子だったら……

一瞬、男1に視線を送る女3。それはただの偶然だったらしく、すぐに視線を戻す。彼の姿は見えてない。

女3 いきなりサリーが着席してわけよね。

男3 まあ、もしくはコールマンに誰か探させるか……

男4 ルールはご存知で？

女4 エイトブレット縛りのドローですよ。

男3 ええ。

女3 この子こう見えて、私の親戚筋では一番頭が切れますの。多分ご迷惑

にはならないと思いますよ。もちろんプレーは初めてで、さっきディナーの最中に教授したんですけどね。両親にばれないようにするのが大変で……

男3 じゃあ、せめてレートを少し下げますか？

女4 いえ、大丈夫です。それにちゃんと大金掛からないと、皆さんも私に

手を抜くでしょ？ それでは私のためにならないと思いませんか？

男4 (男3と視線を合わせ) 確かに……

男3 じゃあ、まあ……最初のアップが場代として1チップ。レイズの幅は

各ステージ共通で8枚まで。いかがかな？

男4 判ります？

女4 もちろん。早く始めましょ。いつ両親に連れ戻されるか判らないので。

女3 場所はどうぞ？

男3 ま、最初は適当でいきましょうか。

女3 では……あなたそちらで。

女4 はい。

身近なテーブル面に着く面々。

男3 じゃあ、最初のディーラーはフリーの抽出で……あ、彼女は外した方が

賢明かな？

女4 いえ、構いません。だって初心者としてはディーラーより左隣のスタ

ーターの方が難しいでしょ？

男4 (微笑んで) これは頼もしい。

女3 ホント、ディナーの余興に話ただけなのよ。末恐ろしいというか……

真新しいカードを卓上に滑らす男3。気楽に一枚カードを抜きオープン。点数の高かった人がディーラーとなつて、まずは本格的なドロポーカーが1ゲーム進行する。ゲームの最初に「アンテイアップ」。ほか「コール」「ホールド」「レイズ」など専門用語が進行に合わせ告げられる。やがて1ゲーム終了。誰が勝っても構わない。以下も基本的にゲームの流れはセリフから分離されている。

女4 あの……

男3 何です？

女4 神父さんが負けたんですよねえ……

女3 ええ、そうよ。ロドリフ神父。

女4 負け分のお金は一体何処から出てるのかしら？

男4 ああ(微笑んで) そうですわねえ……まあ、善良な市民からの浄財か……

男3 パترونですね。熱心な女性信者。ああ見えて結構お盛んなんだから、

ロドリフ神父。

女4 (微笑んで) まさかあ。

女3 ……そうそう。さっきも話題になつてたわよ。ほらこの船の出発してす

ぐの……何？……すれすれの。

男3 ああ、はいはい。

女3 デイナーの隣のテーブルでも。

男4 え、何の話です？

男3 いやね、この船、出発セレモニーの最中、運河に停泊中の規模の船にね、あわや衝突しかけたんだって。

男4 ほう。…あ、いや、私は都合でクイーンズタウンから乗り込みましたので。

男3 ああ、そうかそうか…でね、デッキの上の何人かが確認してる。わずか数メートルだったって。乗務員とか叫んでたって言うからさ。

男4 それはまた、何とも不吉な。

男3に視線を送る男4。意味を解し微笑む男3。

女4 やっぱあれでしょうかねえ。船体が大きい分、小回りが利かないんですかねえ。

女3 あるいはね。そうそう、それともつと可笑しな話もあつてね。…：ちよつと聞いている？ 何笑つてるの？

男4 ああ、いえ、これは失礼。

男3 ナン夫人お得意の戦略かもつてね。

女3 なによそれ、そんなんじゃないわよ。ほら、あそこ何て言うの、船の一番下の、竈で人夫たちが働いている所。

男4 ああ、ポイラーですか？

女3 そうそう、その石炭庫でね、事もあるうか停泊中から火災があつて、ついさっきまで燃えてたんだって。

男4 まさか…

女3 本当よ。だって絶対秘密だって口止めまでされたから。ね、逆に信憑性あるでしょ。

男4 (微笑んで) それこそ最高に不吉ですよ。

男3 で、口止めされた相手…すなわち情報源は誰なんです？

女3 それは…それこそ絶対秘密よ。

男4 (微笑んで) なるほど。

女3 ったく…：あんたら男どもはね、そうやって人の意見や新しいニュースに疎く、加えて保守的だったから、今のよう不景気なことになったの

よ。だいたいね…

男3 まあまあ、婦人参政権の話は後程じっくり聞きますから。

女3 ったく…：サリーいいこと。こういうトコロに入りにしてる男ですらこうなんだからね。ま、ココロを預け過ぎないことだね。この世の男と名の着く人種にはすべからく。

女4 はい。叔母様。

男4 人生勉強ですねえ、今夜は。

女4 はい。

女3 …：ったく…

女給姿の女2がトレイで飲み物を運んで来る。

女2 お待たせしました。

男3 …：あれ？ これ水割り？

女2 ええ、いけませんでした？

男3 言わなかったっけ？ 僕はロックしかやらない。

女2 多分、お聞きしてないと…

男3 言わないと自動的に水割りになるわけ？

女2 いえ…

男3 だってダイナーの時も、君に同じ物頼んでるでしょ？

女2 …：すいません。でも…

男4 ああ、それは僕がもらおう。君はすぐに作り直して来て。

女2 あ、はい。失礼します。

男3 コールマンさんは？

女2 まだ見かけておりません。

男3 そ。いいから急いで。

女2 はい。

慌てて他の飲み物を配り去る女2。ゲームに戻る人々。

男3 寛大ですなあ、君は。

男4 え？…：ああ、

男3 それとも何かモーションかな？

男4 まさか。

女4 そういうジェイソンさんは、奥様にご心配じゃないんですか？

男3 ああ、奥様ねえ…

女3 2度目の離婚訴訟中でしょ？

女4 えっ？

男3 …さすがに情報通ですなあ。その通り。寂しい一人旅ですよ。まあ、一応世間体もありますからね。今回も同室に囲っていただけますがね。基本的には独身アバンチュールですな。

女4 そうなんですか。

男3 これまた2言目には女性の参政権を口にする輩でしてね。恋愛も同様だそうです…：どうやら主治医と出来ている。

女4 まあ。

女3 まあまあ。

男3 何でいつもああゆう女に引かれるんでしょうねえ。僕は。

男4 それはあれでしょう。

男3 何よ。

男4 ご自身が望んでらっしゃるんでしょう。

女3 ああ、あれね。自分では気づかない自分の好み。もしくは持って生まれた性分。

男4 ええ。あるいは崩壊欲のような。

女3 崩壊欲？

男4 ココロの何処かにね。ボロボロになりたいって欲があるんですね、ヒトって奴は。だから…

男3 だからって、わざわざ妻にめとるかなあ。

男4 加えて貴方は人一倍ひねくれていきますからねえ。

男3 そうかなあ…

女4 じゃあ…レイズ。

男3 おいおい…

男5 ……あ、どうも。
あれ。(ダーツボードを示し)
ああ、はい。
抜いてくれないかなあ。

男5 あのお…

男3 ん？ おい君、ココは…

女3 ああ、私、私。どうぞ入って。

男3 いや、しかし。

女3 プレーさせる訳じゃないの。どう？ 判った？

男5 ええ、こちらに… (メモを提示)

女3 (皆に)ちよつとごめんなさいね… (メモを読んで)…間違いはない？
ええ。

男5 貴方がその目で確認したのね？

女3 ええ、さすがに遠目でしたけど。

男5 そう… (紙幣を握らせ)…ありがとう。どう？ 一杯やってく？
ぐに給仕がやってくるけどね。

男5 あ、じゃあ、一杯だけ。

男3 何か良からぬ気配ですねえ。

女3 まあまあ。チップが無くなったら話してあげるから。

男3 ほう。

男4 よほど価値ある情報らしい。

ゲームに戻る面々。3等船室の男5は、若い女4や部屋の様子に興味津々。やがて反対側のソファに粋がって腰掛けて、もらったブランドイーを手のひらで得意げに回して時々たしなむ。

男1 あのさあ。

男5 ん？
こつちこつち。

初めて男1と視線を合わせる男5。他の面々はゲームに完全に夢中である。

男5 ……あ、どうも。

男1 あれ。(ダーツボードを示し)

男5 ああ、はい。

男1 抜いてくれないかなあ。

男5 ああ、矢ですよねえ。
男1 そうそう。
男5 (紳士気取りで) ええ。構いませんよ。

背伸びして矢を取り、男1に手渡す男5。

男1 ああ、それからさあ。
男5 何でしょう？

男1 少し高すぎると思わない、それ。

男5 ? : ああ、そうですよねえ。ちよつと待つてくださいい…
男1 ついでに言えば良かったよねえ。

男5 いえいえ。… : こんなものかな。

男1 (もつと下へ、の手振り)

男5 ああ、そうですよね、すいません… :

男1 いえいえ、こちらこそすまないね。

男5 どうでしょう？

男1 うん、元どおり。

男5 えっ？

男1 いや。

男5 : : あの、失礼ですが… :

男1 助けてもらっておいて何だけどね、そろそろ退散した方が良くない？

男5 えっ？

男1 もうすぐ誰か来るよ。給仕か見回りが。

男5 あ、そうですねえ。

グラスに残った液体を名残惜しそうに眺め、頑張つて飲み干そうと試みる男5。

男1 今何時？

男5 ああ… : 1時40分ですね。

男1 そう。もうすぐだなあ。

男5 あ、来ますか？

男1 うん。来るねえ。

男5 じゃあ、急がないと… :

男1 私の言った方は急いでも無駄なんだけどね。

男5 はい？

男1 ま、でも放っておいてもバタつくか。

男5 はあ… (飲み干し、女3に) ご馳走さまでした。これココでいいですか？

女3 あら、まだ居たの？ ああ、そこでいいわ。

男5 じゃあ失礼します。

女3 また何かあったらよろしくね。

男5 はい。では… :

男1に頭を下げて去る男5。暫し無言でゲームが進む。

女4 静かですなえ。

男4 まあね。さすがにこの時刻、バンドも休んでいるでしょう。

女4 甲板は寒いのかしら。

男4 ええ多分。かなり南下してるはずですよ、冰山。

男1、空気を読む仕草。やがて、取り戻した一本のダーツを力強く投じる男1。巨大豪華客船が冰山に衝突した瞬間。あくまで象徴的に。事実、衝突時の船体の揺れなどは、場所によりほとんど体感されなかったという報告が多い。

女4 あら？

男4 何？

女3 今、少し揺れませんでした？ 船。

男4 いや。気が付かなかつたけど。

女4 遠くで変な音もしたような。

女3 気のせいでしょう？ もしくは初めてのフェイク？

女4 いえ… : そうですか？

男4 隣の部屋の馬鹿が力任せにダーツでも叩き込んだんでしょ、きっと。

女3 しかも的外れでね。

男4 ああ、壁？

女3 そうそう。

男1、矢を抜き振り返る。男4が直視している。

男1 ……

男3 どうした？

男4 ああ、いえ。

ゲームに戻る男4。納得いかない男1。ややあつて入り口に前シートのまま、すなわち現代風スタイルのままの女1。部屋の中を凝視する。やがて男1と目が合い、複雑な表情で会釈。不本意ながらも応える男1。入室を諦めて去る女1。納得いかない男1。

男3 なんか小腹が空いてきちゃったなあ。

女3 デザートの残りぐらいいあるんじゃない？

やがて上手より女2とギャルソンスタイルの男2（つまり見た目はシーン1と同じ）が登場。

女2 失礼します。

男2 どうも御待たせしました。

男3 これはこれはコールマンさん。てつきりお休みかと思いましたが、若いウエイトレスト。

男2 （微笑んで）ご冗談を、ジェイソンさん。

女2 （開き直ってロックを置きつつ）大変お待たせいたしました。

男3 ……（男2に）追加のチップを。まだまだ後でよさそうだけだね。

男2 畏まりました。いやあ、まさかこんな奥の席で囲まれているとは知ら

ず失礼致しました。

男3 落ち着きますよ。最初からココにすれば良かった。

女3 お変わり貰えますか？ グラスはそこ。

男2 はい。じゃあ君。

女2 （男2に）ありがとうございます。少々お待ちください。

少し嫌味にグラスを下げ、去る女2。すれ違いに遠慮深く入室する女

5。一目でバンドの歌手と判る服装。

男2 すいません。急なスタッフの増員で、なかなか教育まで行き届かない。

男3 寄せ集めって事ですか？

男2 いやいや、これは手厳しい。

女5 あの……

男2 ああ、そうそう忘れてた……みなさんちよつと探しモノをさせてもらえ

ませんでしょうか？ 決してゲームの邪魔はいたしませんので。

女5 すいません、お願いします。

女3 あら、あなたディナーの時の。

女5 ああ、はい。

女3 なかなか素適なお声でしたよ。バンドとも息があつてたし。

女5 ありがとうございます。すいません、ちよつとココに落とし物をした

ようでした……

男3 でも誰も使つてなかったようだったけど？

男2 ああ、いえ、まだお客様が乗り込む前なんです、ココをバンドの打

ち合わせに使っていましたので。

女3 ああ、なるほど。

女5 お邪魔はいたしませんので……

女3 どうぞどうぞ。

遠慮がちに床やソファを探す女5。男2もそれを手伝う素振りだったが、男4の横顔を確認し、正面に廻り込む。

男2 おや……確か君は……

男4 （伏せ目がちに）どうも。

男2 困りますねえ……

男3 いやコールマンさん、こちらは私の友人でエドワード君だ。確かに切

符は2等船室だが……問題ないだろ？ 私の招待だ。

男2 あ、いや、でも。

男4 いえジェイソンさん。実は彼とは初対面ではないわけでした……

男2 4年前はマッコイさんでしたなあ、その前は確かライシャワーと名の

つてらした……

女3 (微笑んで) 噂に違わぬ経歴ね。

男4 まあ、信じて下さいとは言いませんが、今は堅気です。2年前からね。事実かなり回んでいます。

男2 後々の大きなリターンのためにね。

女3 勉強になるでしょ？

女4 ええ。

男3 まあまあ、皆承知してやってるんだから：

男2 ……そうですか？

女3 そうなのよ。

男2 ……(敵意残し男4に) これは、大変失礼致しました。どうかお許しく
下さいませ。

男4 いや…お嬢さんも何か御変わりは何ですか？

女4 ああ、じゃあ、何か果実酒のようなモノを。

男3 そうそう、何かデザート残ってない？

男2 ムースの類で宜しければ：

男3 じゃあ彼女と僕と…(女3に) どうします？

女3 私は結構。

男2 (嫌味含んで) どうされますか？

男4 私も結構。

男2 畏まりました。では…：

男6 ああ、コールマン！…

航海士姿の男6が慌てて入室。男2を見るなり声を掛けるが乗客の視線に気づき素早く笑顔を繕う。

男6 ……ああ、これは皆さん、失礼しました。いかがですか？ 何か不自由
ございませんか？

女3 こんにちは、一等航海士のマードックさん。

男6 どうも。

男3 君がノコノコ歩いていられるって事は、何より快適な船旅って事でし
よ？

男6 (笑顔で) はあ、恐縮です…(男2に) ちょっと。

男2 はい…では暫しお待ちを。

足早に去る男6。従って去る男2。

女4 一等航海士ってのは船長の次ですか？

男3 そうなんじゃないの？

女3 いえいえ、船長の次は航海士長ね。その下が一等航海士。

男3 ああ、そうなんですか…。

女3 ね、その下が2等、3等、4等って風になってんだけど……実は今
のマードックさんねえ、元々は航海士長として乗り込むはずだったのね。

男3 ほう、それは初耳だなあ。

女3 最初はとても喜んでいたそうよ。それがさあ、あんた。航海の直前に
なつて元オリンピック号の航海士長が乗り込むことになったのよ。

男4 ああ、それで降格人事ですか、マードックさん。

女3 そう。それにね、聞いた話だと、その新しい航海士長、ヘンリー何と
かって言うんだけどね…：

女5 ヘンリー・T・ワイルドです。

女3 えっ？…ああ、はいはい。

女5 あ、すいません…

女3 いえいえ…そうそう、そのヘンリーさん、何でもこの船に乗り込むの
が嫌で嫌で、最後まで固辞してたって話なのね。

女4 え、何ですか？

女3 さあ…だって船の下見にも一度も訪れず、テスト航海にも参加してな
いって話よ。

男3 迷信を信じやすい性格だったんじゃないの？

女4 迷信っていいますと？

男3 うん。船乗りの中では処女航海を忌み嫌う輩も少ないって話だよ。昔
の神話とかに託けてね。

女5 (微笑んで) でも、皆がそれを信じてたら、新しい船は永久に船出で
きませんよねえ。

男3 ……なかなか言うねえ、君も。

女5 あ、すいません。

男4 あ、じゃあ彼もその口かなあ。

女3 え、何々？

男4 いえ、僕がクイーンズタウンから乗り込む時にね、待合所でチケット

をこっそり売りに出てる奴がいましたね。

女3 ダフ屋の類じゃなくて？

男4 いやいや、たった今船から下りてきた感じですね。明らかに石炭係のようないでたちだったけど……。

女3 ふん。

男2 ま、船会社なんて、マトモな奴ほとんどいないから。

女2 そうなんですか。

男4 (女3に) やはりライバル会社がスポンサーですか？

女3 えっ？

男4 諜報部員並の調査力に御見受けしましたが。

女3 ああ、私？ 止めてよ。ただの知的好奇心ですよ。

男3 3等室の坊やまで使って？

女3 まあ、ちよつと訳があつてね。

男3 やっぱ「訳アリ」なんだあ。

女3 もう……知り合いがね、ニューヨークに住んでるモノ書きなんだけど、何か題材になる話を集めてきてくれて。

男3 ほう。

男4 豪華客船を舞台にしたミステリーですか。

女4 まあ、面白そう。

女3 船が着いたら暫く世話になる相手なのよ。そうそう無下にも出来ないでしょ？

男4 なるほど。

男3 デザート遅いなあ……

ゲームは淡々と続き、誰かが勝つ。チップが勝者の元へ。

女3 どうだったの？ あなた。

女5 え、私ですか？

女3 探し物。

女5 あああ……すいません。

確かにいつしか探すのを止め、ソファアに腰掛けていた女5。

女3 謝らなくてもいいけど……大切なモノだったんでしょ？

女5 ああ、いえ……それほどでは……

女3 いいのいいの。女が床に這ってまで探すのはね、へそくりか恋人からの贈り物と相場がきまつているのよ。

女4 そうなんですか？

女5 いえ……ホント、安物で。

女3 貴女以外のヒトにとつてはね。

女4 まあ。おばさまつたら……

男4 ……僕の情報からすると……どうやらバンドのリーダーがお相手のようですけどねえ。

女3 あら、そうなの？

女5 いえ……

女4 あのちよつと小柄なバンマスさん？

男4 いや、僕は2等ですので顔までは。

女4 あ、そうか。そうでしたね。

女3 (男4に意味深な視線) ふん。

男4 ……

男3 おいおい頼むよ、客のサービスそっちのけじゃあさあ。

女5 あ、いえ、ですから……

男3 高い金払ってんだからさ、こっちは。

女5 ……すいません……

女3 まあまあ。

男2 お待たせ致しました……

男2登場。手にトレイ。ブランデーとワイン。

男2 ……何か？

男4 ああ、いえいえ。

男2 そうですか……デザートはもう少しお待ち下さいませ。

男3 ちえ。

女5 あ、じゃあ私……

男2 ああ、見つかった？

女5 いえ……(皆に) どうもお邪魔しました。

女3 あつたらお知らせしてあげますからね。
女5 ええ、よろしく……

足早に去る女5。飲み物をそれぞれに配る男2。

女3 ……ま、多分見つからないでしょうけど……
女4 えっ？

女3 (男4に微笑みながら) いえいえ。

男4 ……

飲み物を配り終え、自然と男3の背後に移動する男2。

男2 ケリーさん、これを……(紙を渡す)
男3 ん？ ちょっと失礼……まさか。

向けられた視線に小さくうなづく男2。男3、さらに読んで、

男3 ……ふん。
女4 電報ですか？

男2 ええ。

男4 何です？

男3 ああ、ちよつと会社の方でね……ありがとう。

男2 まだ確実ではないのですが……それで……

耳元でさらに一言告げ、少し離れる男2。

男3 了解。……ああ、失礼失礼、さ、続けましょう。

軽い不審を抱きつつもゲームに戻る面々。皆の様子をしばし見つめ、おもむろに去ろうとする男2。

男1 ねえねえ。
男2 ん？

男1 こっちこっち。

男2 ……ああ……これは失礼を……えつとあなた様は……

男1 矢が足りなくてさあ、2本。

男2 矢……ああ、ダーツですか。

男1 そうそう。あなたのポケットに入ってるでしょ？ あれ返してくれな

いかなあつて。

男2 いや私は……

男1 そっちそっち(胸ポケットを示す)。

男2 いえ、ですから私は……(指を止め) ん？

自分の胸ポケットから矢を2本取り出す男2。

男2 これは……
男1 どうも。

差し出しされた男1の手に、止む無く矢を戻す男2。

男1 任務に戻られた方が懸命ですよ。事が事ですしね。

男2 あなたは……

男1 大丈夫、また会えますから。だって見ての通り、私はココから動きよ

うがない。

男2 いや、ですから余計に……そもそも乗員名簿には……

男1 ここで私に費やす少しの時間が、大勢の命と引き換えになるかも知れ

ませんよ。

男2 ……(皆を意識し)どうかその件は……今の所……

男1 ええ。承知します。

男2 (皆に)では……またご報告に伺いますので。

皆に視線を送り、足早に去る男2。3本の矢を手にし、満足げにポードに向かい、連続で投げる男1。女4、その音に絡んで、

女4 ……なんだか上がバタついてますねえ。
女3 ネズミでも出たんじゃないの？

女4 えっ…いるんですか？ 船にも。
男4 ああ、乗り込んでましたねえ、クイーンズタウンでも。私の2つ前が
ネズミの夫婦でした。子供が6人。
女4 いやですわ、エドワードさん。
男4 (男3に) どうかしましたか？

気づけばゲームの進行が男3で止まっている。

男3 …うん。
男4 珍しく長考ですか？
男3 やっぱ性に合わないなあ…
何を今更。
女3 いえね…「沈むかも知れない」って、この船。
女4 えっ？
男3 …うん…
女3 ……ああ、さっきのメモ？
男4 まさか…
男3 うん。2枚…

ゆっくりとチップを積む男3。今度は皆が不動。

男3 パニックを避けたいからって、また判り次第伝えるって。
女3 そう…
女4 (立ち上がって) 叔母様！ どうしたら…
女3 サリー。
女4 …はい。
女3 座って。
女4 でも…
女3 いいから座るのよ。
男4 …2枚。
女4 …(座る)

暫し無言でゲームが続く。

女3 …スクリュー？
男3 いや、氷山。
女3 そう…
女4 きつと大した事ないですよ。こんな立派な船ですもの。
女3 ええ、そうね。
女4 …だって絶対沈まない構造だって、お父様も…
女3 あなたの番よ。
女4 ……
男3 …ムースは来ないかなあ…
男4 マンハッタに着いたら粹なカフェにお連れしますよ。

女2、ムースを持って登場。明らかに動揺を隠すよう指示を受けている様子。デザート皿がカタカタ音を立てている。

女2 …お待たせ致しました…

2つ目のデザートを置く際、思わず皿にスプーンを落としてしまう女2。その音に凍る空間、事の真実味を確信するギャングブラー達。

男4 …いいからいいから、ありがとう。
女2 はい…失礼します…

足早に退場する女2。誰も口を付けないムース。

男4 …一端休憩しますか。
男3 そうだね…僕、ちよっとトイレ。

掻き集めたチップをポケットに入れ、足早に去る男3。

女3 …じゃあ、ちよつと上の様子でも見てこようかしら。
男4 そうですね。多分…ジェイソンさんも戻る保証ないし。
女4 えっ？
女3 そうね。サリーも一度部屋にお戻りなさい。心配してるわよ、お父さ

ん。

女4 でも：

女3 大丈夫。こんな化け物のような船、そうそう簡単に沈みませんよ。2

0分もしたらまた連れ出してあげるから。

女4 …分りました、そうします。

男4 いい子ですね。

女3 どうするの？ あなたは。

男4 戻る気はしませんねえ。実は…3等でした。

女3 まあ。

男4 チケットに少し細工はしましたが…。

女3 そう…でもゲームはフェアでしたよ。評価します。

男4 それはそれは…実は、まだまだ続きがあると思ってましたので。失敗
しました。

女3 フフ。

シヨールを壁から取り、女4にも渡す女3。

女3 じゃあ、後程。

男4 お待ちしています。

去る女3、4。取り残された男4と男1。ダーツを投じる男1。その音に
応えゆつくり視線を向ける男4。覚悟してか、ゆつくり振り向く車椅子の男1。

男4 どうも。

男1 やっぱ、見えますか。

男4 それはもう、くつきり。

男1 珍しいんですよ、こつちから仕掛けてないのに。

男4 で？ 失礼ですがお宅様は。

男1 ああ、どうかご心配なく、私は多分死んでますんで。

男4 余計に怖いじゃないですか。

男1 ああ、そうか…

男4 それに多分というのは…

男1 ちよつとこれを見てください。

男1、ポケットから図面のようなモノを取り出す。

男4 これは…設計図ですね、この船の。

男1 ええ、多分…

男4 また多分ですか。

男1 例の姉妹船、オリンピック号って奴のかも知れません。事実、1年前から営業しているオリンピック号とこの船は、わずか2、3の違いしかありません。それも実に装飾的な、軽い修正って感じですね。

男4 そうなんですか…

男1 実際にこの船の図面として資料化されているモノも、大半は実はオリンピック号のモノなのです。今までも、そして今後も。

男4 今後って、あなた…

男1 現在、ココとココが60%ぐらい水に浸かっています。

男4 はあ…でも、この船は万一に備えて各ブロックが閉じて設計されているんでしょ？ 部分が浸水しても船全体は沈まないように。何とか言いましたよねえ、密閉型の…

男1 水密区画方式ですね。ええ…しかし区画、コンパートメントという名前は実際相応しくありません。それぞれのエリアは決して天井まで閉じて区切られている訳でもなく、水が27フィートを超えれば隣の部屋に自然流れていく。少しも密室でないんですな。

男4 なるほど…でも聞いた話では、4つまで満杯になっても沈まない…

男1 氷山に擦られて、プレートが歪み、ピペットが飛んだのはココからココまでです。衝撃は強くないが、その分長く削られた。

男4 隔壁が5つ分…じゃあ、やはり。

男1 さすがにすぐには沈まない。船が傾くのも最初の1時間は感じないでしょうな。そこから急に激変する。

男4 へえ…

男1 と、こんな話を信じますか？

男4 …ギャンブルですねえ…

男1 なるほど。

男4 でもまあ、あなたにしたって、こんな階段の迷路のような船の中、ど

うやつて移動しココに存在するのか、今話題の垂直移動設備が全室備わつていれば別ですが。

男1 ああ、エレベーターね。

男4 つまりアナタ自体が不条理ですからねえ。不条理が話す不条理は、逆に信憑性がありますね。

男1 ギャンブラーですなあ。

男4 本当に足は洗ってますので。

男1 なるほど：あ、誰か来ますね。

男4 そうなんですか？

男1 もう少し私の事、伏せておいてくれませんか？

男4 別に構いませんけど：

入り口より女5。無人：を確認しつつ入室。

男4 …これはこれは、お早いお戻りで：

女5 お一人ですか？

男4 …（男1に視線）それはもう：見ての通り：

女5 別にお昼の約束をすっぱかされて、怒った上での所業ではないですから：

男4 （微笑んで）ああ、今の今迄忘れてました。

女5 …：

男4 うそうそ。

女5 …一言詫びを入れてくださるかと思って。

男4 あ、さっきの？ バンマスさんの話？

女5 純粹な嫉妬心が動機なら、考えなくもないですけど：

男4 だって、ホント知らなかったんだもの、彼の事。後から聞かされたわけですよ、その：

女5 …：

男4 飲み過ぎましたね、昨日は、お互いに。

女5 じゃあ：彼の事を知ったら誘わなかったんですか？

男4 そりゃあもう…：誘ったかもなあ…

女5 …（吹き出す）

男4 …ごめんごめん、さっきは乗り過ぎた。

女5 ったく、都合いいんだから：

男4 そっちこそ、落とし物とは苦しい言い訳でしょう。笑いを堪えるのに大変だった。

女5 だって：

男4 聞いた？ 船の事。

女5 ああ、ええ。すれ違った紳士達の会話から。本当なの？ 沈むかもつて。

男4 まあ：（ちらり男1に視線）：5分5分かな。

女5 あなたはどうするの？

男4 ココで次の報告待つよ。そう言ってたし。

女5 コールマンが貴方だけしかいないのを確認したら、無言で通り過ぎるんじゃない？

男4 ああ、確かに：君こそ彼氏の近くにいなきゃ。

例の金属製フラスコを一飲みし、女5に渡す。

女5 （飲んで微笑み）それがさ、バンドのメンバー集めて演奏の相談してるの。

男4 へえ。

女5 用意が整い次第、甲板へ集合だって。

男4 なるほど…：少しでもパニックを防ごうって？ なかなか出来る事じゃないさ。

女5 ただのお人好しよ。私の事なんて、音楽の8分の1なんだから。

男4 君も歌えばいいのに。

女5 海の神様が逆上するそうです。

男4 へえ：言ってはみたんだ。

女5 あ、嫌な奴：（フラスコの底を見せながら）…ねえ、これは？

男4 あ、しまった…

女5 もしかして本名？

それには答えずフラスコを取り上げポケットに片す男4。入り口から無言で女1。空気を察する余裕なく入室しソファに腰掛ける。

男4 あの：
女1 (手で制し) 少し考えさせてください！ いえ、自分では整理しかけているんです、この状況を！ でも……あ、いえ……どうか暫し一人に……
男4 はあ……
女4 失礼します。

勢いよく入ってくる女4。そのまま椅子に座る。ややあつて、追いかけるように女3も入室。

女3 サリ。お願い、戻って。

女4 ……

男4 これはお早い帰還で。

女3 ええ、彼女の父親がね。会うなりビンタを食らわすものだから……多分生まれて初めてのね。

女4 いいえ。

女3 え、何？

女4 2度目です。

女3 そうなの？

女4 この船に乗らないって言った時も。

女3 ……そう。

男4 ……まあ、父親の方も、ニュースを聞いて動転してたんでしようねえ。

女3 あるいはね。だからと言って、いきなり張らなくても……

男4 じゃあ……(女4に) ポーカーする？

女4 はい。

女3 ちよつとエドワードさん、あなた……

女4 座ってください、叔母様。

男4 いや……僕と差して勝負しよう。僕が負けたら……そうだなあ……君のために「恥ずかしい踊り」を踊ってあげる。アフリカ本土でもなかなか見られないカルア族の踊りだ。僕はそのためにブリーフ一枚にならなきゃいけないけど。

女4 ええつ、何です？ それ。

男4 で、君が負けたら両親の元に戻る……いかがかな？

女4 ……いいですよ。勝負しましょ。

男4 うん。いい子だ。

女4 あ、イカサマはなしですよ。

男4 もちろん。イカサマどころか……じゃあオープンポーカーで行きましようか。

女3 オープンポーカー？

女5 何それ？

男4 ルールは簡単。全てのカードを表にして……

全部のカードが見えるように広げる男4。

男4 ……この中から、まず先手が好きなカード5枚を選ぶ、どんな強い役を作っても自由だ。そして次に相手が同様に5枚。先手からカードチェンジ

を1回づつ。5枚全部変えてもいいし、ノーチェンジもOK。ただし、相手が捨てたカードだけは拾って使ってはいけない。どうかな？

女4 2人が同じ役を作った場合はカードの柄で決まるの？

男4 ほう、君は頭がいいねえ。そうだなあ……じゃあ、僕に先手をやらせてくれたら同じ役の場合僕の負けでいいよ。

女4 ……換えなくてもいいのよね。

男4 うん。

女4 いいわ、じゃあ私が後で。お先にどうぞ。

男4 役の強さは覚えてたっけ？

女4 馬鹿にしないで。

男4 これは失礼、じゃあ、つと……そうだなあ……まずは……10を4枚と……

女4 えっ？

男4 てつきりロイヤルストレートフラッシュだと思った？……残りの一枚は……これでいいや。まずは10のフアオカードと。どうぞ。

女4 女4、10を全部使われたから、最初に目論んだロイヤルストレートフラッシュが出来ないのに気づき、表情を変える。やがて考えながら5枚を選ぶ。

男4 おお、9を頭にしたストレートフラッシュですね。僕が10を4枚使

っちゃいましたからねえ。じゃあ、僕がチェンジしていいですか？

男4 ……いいですよ。勝負しましょ。

女4 ……いいですよ。勝負しましょ。

男4 ……いいですよ。勝負しましょ。

女4 ……いいですよ。勝負しましょ。

男4 ……いいですよ。勝負しましょ。

女4 ……いいですよ。勝負しましょ。

男4 ……いいですよ。勝負しましょ。

女4 ……いいですよ。勝負しましょ。

女4 あ、待って？

女4、慌ててカードを選び直す。

男4 なるほど今度はAのフォアカードですか、じゃあ僕は…この10を一

枚だけ残して…キング、クイーン、ジャック…

女4 (自分のカードを伏せて) もういいわ。

男4 ストレートフラッシュですね。残念ながらAは貴方が使っちゃってま

したけどね。

女3 お見事。

女5 そうか…：相手は捨てた10を使えない。つまり、先手必勝なのね。

男4 そこまではっきり言わなくてもさあ…

女4 …分りました。(立ち上り) いい勉強になりました。

男4 恐縮です。

女4 いえ…負けは負けですもの…もう一度両親と話して来ます。

男4 それがいいでしょうね。

女3 付き添わなくて大丈夫？

女4 ええ、きつと戻ってきますから、すぐに。

去る女4。見送り、着席する女3。

女3 今度はこつちにしましょうか。

男4 えっ？

女3 ありがと。持つべき者はペテン師の友人ね。

男4 ああ…せめて元ハスラーと…

女3 (女5に) 出来るの？

女5 えっ？

女3 ドローのエイト縛りだけど。

男4 やるんですか？

女3 何のために戻ってきたと思ってるの？ どうなの？

女5 はい。一昨日、覚えたばかりですけど。

女3 イカサマ指南じゃないでしょうね。

男4 まさか。

女3 そう。まあ、3人だと少し物足りないけど…

今度こそ自分の出番だと信じ、進み出る男1を追い抜いて、片隅で悩んでいた女1がツカツカと着席する。

男1 おーい。

女3 …あの…

男4 あら、素適なお洋服ね、こんばんは。

女3 …

女1 助かりますわ。どうもこの2人は怪しくて…

女3 …(男4に) チップ。

男4 ああ、…どうぞ。

女3 じゃあ、(女5に) 貴方はこれを使って。サリーの分。

女5 あ、はい…でも彼女、絶対戻るって…

女1 彼女は戻りません。

女5 そうなんですか？

女1 …そうなんです。

勝手に親になり既にカードをシャフルしている女1。

男4 …ルールは大丈夫ですか？

女1 ここで起きた事は、知り尽くしておりますから。

男4 はい？

女1 食事のメニューからメイドの制服まで。

男4 はあ…

女1 カットどうぞ。

左隣にカードのカットを促す女1。ゲーム始まりしばし続く。

男4 どうでした上の様子は？

女3 いろいろ情報が錯綜してるわ。氷山の欠片で遊んでる人達もいたし。

男4 へえ。

女3 …最初にカードを始めたのはいつ？

男4 人類が、ですか？
女3 (笑って) どちらでも。
男4 僕は8歳だったけど……ギャンブラーはね、世界で3番目に古い職業だと言われてますね。
女5 へえ。誇り高きって奴ですか。
女3 言ってるのも当のハスラー達でしょ？
男4 多分。
女1 レイズ。
全員 ……

1ゲーム終わる。誰が勝っても構わない。親が左へ移動。

男4 そろそろ教えてもらえませんか？
女3 え、何？
男4 さっきの坊やの聞き込み。
女3 ああ：そうね。
男4 もしかしたら秘密の聞き納めになるかも知れないし。
女3 そうねえ……(女5に) あなた。
女5 はい……
女3 まだお名前を伺ってなかったわね。
女5 ああ、申し遅れました、ローズです。ローズ・ベッカー。
女3 じゃあ、ローズさん。そっちのテーブルのムース、頂いちゃいませんこと？
女5 ああ、はい。
男4 あ、ついでに僕のグラスも。

隣のテーブルから口手付かずのムースを運ぶ女5。まず女3の前に。

女3 ああ私はいいの、こちらに。
女5 ああ、はい……どうぞ。
女1 あ、すいません。

「最後のデザート」に学術的関心が芽生え、慎重に味見したりする

男4 (女1に) 失礼ですが貴方は？
女1 は？
男4 ですから、まだお名前を……
女1 ああ：旅の者です。
男4 ああ。なるほど……

女1。自分のムースを持って戻る女5。

おもむろゲーム再開。女3、カードが配られる様を眺めながら、

女3 実はね、この船、タイタニックじゃないって説があるのよ。
女1 えっ？
女5 まさか。
男4 (微笑んで) じゃあ、何なんです、この船？
女3 姉妹船のすげ替えじゃないかってね。
男4 ああ：1年早く運行したオリンピック号：ですか？
女3 そうそう。んで、もしそうならオリンピック号が起こした去年の事故の痕跡がココに残っているんじゃないかって。
女5 事故の痕跡？
女3 ええ。ちよつと長くなるけど……もちろん公開はされてないけど、昨年のオリンピック号はトラブル続きだったのね。処女航海が6月なのに、3ヶ月後には軍用船と衝突し、船尾に大きな穴が空いてエンジンもぼろぼろ。浸水しながらやっとの思いで引き返したのね。さらに2ヶ月後の11月には、ニューヨークからの帰路で巨大スクリーパーの一枚を脱落する事故を起こしてるの。

男4 そうなんですか？
女3 船長ははずれの時もスミス船長ね。
女5 今まさにこれを動かしてる？
男4 とりあえずエンジンは止めちゃったようだけどね。
女3 そういう事。
男4 じゃあ、叔母様の調査対象は、スクリーパーは無理として……：そうか、船尾の修理跡ですね。
女3 さすがに1等船室の私達が調べられないでしょ？

男4 それで坊やを行かせたと。

女3 設計図には存在しない、可笑しい隔壁が作られてたつて。

男4 へえ。

女5 でも、何でこの船とすり替える必要が？

女3 問題はそこよ。いい？ 豪華客船を造るのつてそれだけでも大金かか
つてるでしょ？ それも2つも。そこに持ってきて、予期せぬ事故。賠償
金も随分な額でしょう？

女5 ああ、それにあれですね。修理に掛かる時間がそれだけ定期船をキャ
ンセルしなくちゃいかなくなるわけだ。

女3 大きな損傷の割には、早く復活したわけですよ。修理ドックの横には
間もなく完成のタイタニック号が並んでいてね。おまけに2つの船は、横
っ腹の船の名前を示すプレートさえ付け替えれば、後は2、3の飾り替え
だけで済むほど、そっくりな作りだった。

女5 あ、じゃあ、そこですり替わった？ 修理を待たず新しい船を動かし、
この船は事故を起こしたオリンピック号？

男4 ……なんか、すごい話ですねえ… (女1に) ああ、失礼。

先ほどから明らかに青ざめて、俯いたままの女1。

女3 ごめんなさいね、変な話で盛り上がって。

女1 ……そこまで気づいてて…

女3 えっ？

女1 なぜ私はここに居るの？

男4 えっと、それは…

女1 ……夢なんでしょ？ 皆で私をからかつて…

顔を見合わせる面々。女1だんだん視点が定まらない。

女1 ……その時何が起こったのか、何がなされたのか、そして何がなされな
かったのか？…

男4 ちよつと、貴方？

女3 大丈夫？

女1 なぜ直前に航海士長が換えられたのか？ なぜ新しい航海士長はそ

れほど乗船を嫌がったのか？ 出発間際に出した妹への手紙の中、なぜ彼

は「まだこの船が好きになれない。何か奇妙な感じがする」とまで書き記
したのか？ なぜ彼の書き記した航海日誌は船と共に消えたのか？…

女5 ……何の話をしてるんです？

女1 今までの石炭係たちがこの船に限りほとんど再契約しなかったのはな
ぜか？ ギリギリになって55名もの予約客がキャンセルしたのは何故
か？ 船の所有者であり豪華スイートに乗り込むはずモーガンが、直前に
仮病まで使つて乗船を取り止めたのはなぜか？…見張り役の双眼鏡は、
なぜ突然消えたのか？ その紛失時期が、降格となった2等航海士が船を
降りた時と一致するのは偶然か？

男4 ちよつと、大丈夫ですか？

女1 なぜ航海直前に追加工事が発注されたのか？ なぜそれらが船の概
観に関わることばかりなのか？ (立ち上り) いかにもオリンピック号と
の違いを浮かび上がらせようとするとその演出真意は？ なぜこの船の試
運転は「まるでデータは充分わかっているかのように」オリンピック号に
比べ簡素に扱われたのか？ 第10石炭庫の火災はなぜ迅速に消化され
なかつたのか？ なぜ会社は「スリルある航海」を自慢して止まないスマ
ス船長を採用したのか？

女5 あなたねえ…

女3 待つて、もう少し聞きましょう。

女1 ……船はどうして氷山群に速度を上げて向かったのか？ 他の船から
の氷山警告はなぜ何度も無視されたのか？ 船首の浸水時、普通は行われ
る船尾へのバランス注水をなぜしなかったのか？ それによりもっと長
く船は並行をたもち「その時」を遅らせられたのではないか？ 船尾の部
分に見られたくない何があったのか？ 肉眼視できる位置に停泊しなが
ら救助に向かわなかつた謎の船の正体は？ 船長スマスはどのような気持
ちでその「予定調和の謎の船」を見詰めたか？

女5 もう止めて！

女1 本当にこの船は事故と偶然で沈んだのか？…事故後の度重なる諮問会
議で、重要な発言をした者ほど、その後の消息が分らないのは偶然か？
会社が得た沈んだ船の保険金・100万ポンドの当初の使い途は？ 姉妹
船オリンピック号の修理期間を最小限に留め、残った負債を「傷だらけの
新しい船」の保険金に託す、船だけ沈め乗客全員を救う計画……それを誰

新しい船」の保険金に託す、船だけ沈め乗客全員を救う計画……それを誰

が目論み、誰までが知っていて、なぜ完成しなかったのか？……私はずこにいてのか？（ゆつくりとテーブルの3人に視線）早く逃げて、何やってるの？ 早く逃げなきゃ！

長い沈黙。ゆつくり自分を取り戻す女1。

女1 えっ？

男4 ……あなたの番です。

女1 え……ああ。すいません……（席を離れ）ごめんなさい……私、やはりもう一度行つてきます。

男4 どこへ？

女1 来てるはずのパートナーを探しながら……今の内に、いろいろ見て廻ります。極度の方向オンチで諦めかけていたんですけど……

女3 （微笑んで）実際迷路みたいですからね。

女1 ええ……（やつと微笑んで）はい。

男1、男4の視線の先で、手に持った紙切れをひらひらさせる。そして床にそっと投げ落とす。意図を察し、立ち上がる男4。

男4 そうですか……おやつ、何か落ちてますねえ……あらあら、これは奇遇だなあ。この船の設計図面ですよ。

男1 くっさあ。

女1 設計図面？

男4 これ見ながらだと少しは迷わないかも。差し上げます。

女1 いいんですか？ 助かります。

男4 どうぞどうぞ。

女1 （見ながら）船尾と、船長室には最低限……

男4 観光ツアーみたいですね。

女1 どうもご親切に……それと（皆に）先程は……私なんか興奮してたようで、良く覚えてないんですが……

女3 またご一緒しましょう。

女1 ……ええ、はい。では、

女5 待って！

女1 何か？

女5 何人死ぬの？

女1 えっ？

男4 ……おい……

女5 ボートの数が足りないんですよ？ 何人が生き残るの？

女1 ……そこまでは、知りません。

女5 うそ……

女3 （出口を示し）どうぞ。

女1 ……はい。

女3 巡り会えるとイイですね、パートナーにも。

女1 ええ……では……

去る女1。見送り後、暫し無言の面々。

女3 ま、じゃあ3人で続けましょうか。チップ戻したら。

男4 はあ……

今度こそ参加しようと慎重に近寄る男1。

女3 いや、止めましょう。ミセス・ナン。

男4 どうして？

女3 あら、どうして？ 2人きりにしろって事？

男4 貴方もボートに向かうべきです。

女3 いいわよ、私は。

男4 駄目です。

女3 私に命令しないで。

男4 ……

女3 ……そもそも気に入らないのよね。普段の生活や政治の場ではべつ視し続けるくせに、こういう段になると女性を弱者に扱って、レディーファースト、生命の優先権……その欺まん、その紳士面は、所詮自分が気持ちいいからなのよ。守ってやってるってね……

男4 せっかく仕込んだこの船の疑惑と真実。ニューヨークの友人に伝えなくては。

女3 真実なんてくそ食らえよ。

男4 貴方には後世に伝える義務があります。夫人の特権を最大に駆使してでも、です。

女3 ……ドラマツルギーで私は動かさせませんよ。夫と別れた12年前からそれは少しも揺るがないの。

男4 そうですか…じゃあ…

女3 何よ。

男4 ギャンブルで決めましょう。

女3 ……フフ…今度はどんなバーベッドかしら…

男4 まさか、貴方相手に……受けるんですか？

女3 まずは話して。どうするの？

男4 じゃあまず、チップになるお札を一枚ご用意ください。

女3 待ってね…生憎ポンド札しかないけど…いいわこれで。

男4 いやいや、私が負けた場合合同額を支払うルールなので、もう少し小額でない…

女3 まあまあ、そんな気も無いくせに。

男4 いやいや。

女3 いいから進めて。

男4 じゃあ、これ預かって。

女5 ああ、はい。

男4 決して僕達に見せないように。

女5 分りました。

男4 これから貴方に数字を2つ言ってもらいます。この札にはデタラメに並んだ6ケタの数字が書かれていますよね。

女3 紙幣ナンバーって奴ね。

男4 そうです。あなたが選んだ2つの数字が、この中にどちらか一つでも入っていたら僕の勝ち。貴方には船を下りてもらおう。どうでしょう？

女3 ……(微笑んで)いいわ。じゃあ……3と8。

男4 OK。彼女に返して。

女5 はい……どうぞ。

ゆっくりと紙幣を開き、数字を眺める女3。暫しの間。やがてテーブルに札を捨てる。

女3 貴方の勝ちよ。これは餞別ね。

男4 ……いいんですか？

女3 お見事でした。(女5に)じゃあまたニューヨークで会いましょう？

女5 あ、はい…

入り口に向かう女3。

女3 数字3つなら受けてませんでしたよ。

男4 えっ？…

女3 通常のサッカーゲームなら、勝ちを確実にするために、3つ選ばせますものね。

男4 じゃあ…

女3 ありがと。貴方に会えて楽しかったわ。

去る女3。無言で見送る女5、男4。

男4 知ってたか…

女5 どういう事？

男4 一見公平そうに見える掛けだけどね、今の条件ですら、僕の勝つオッズは5対1。

女5 へえ、じゃあ3つの数字だったら。

男4 17対1ぐらいかな。

女5 それってイカサマと同じじゃない。

男4 だから敬意を表して…あ、もしかして…

テーブルの上の紙幣ナンバーを確認する男4。

男4 ……向うが一枚上手だった…

女5 じゃあ…

男4 3も8もない…

女5 きつと彼女は生き残るわね。

男4 5倍の壁をなんなくクリアして…あ、もしかして何するか分かって盗

み見してたか？

女5 あなたじゃあるまいし。

男4 うん？……まあ、そうかな。

女5 それより私の説得にはどんなゲームを使うつもり？

男4 あ、しまった。

女5 何、もしかして品切れ？

男4 そうじゃないけど、パターンを見せ過ぎた。

女5 ちよつとやそつとじゃ騙されませんか。

男4 ……何か、楽しんでるようだね。

女2が駆け込んでくる。入り口で躊躇。「失礼します」と言いながら、上手テーブルの片付けを理由に入室。やがて追うように男2。手には救命胴衣。

男2 ああ、これは…報告遅くなりまして…他の皆様は？

男4 ああ、ご婦人方はボートに向かわれました。ジェインソンさんは…彼も今ごろボートでしょうかね。

男2 いや、でも…

男4 女性用の鬘もお使いになって…

男2 ……なるほど。

男4 あくまで推測です。

男2 どうか救命胴衣を着けてデッキにお集まりください。事情をご承知なら、なおさら急いで。胴衣はお部屋かロビーにもございますから。

男4 (女5に視線)

女5 ……

男2 (女2に寄り) さあ、君も早くこれを着けて。

女2 嫌です…

男2 いいかい。これは命令だ。まず君達従業員が見本を示さないでどうする。その上でお客様には笑顔と安心感を演じて…

女2 嫌です！

男2 ……君…

女2 私には出来ません。どうかそつとしておいて下さい。そんな事、聞いていなかったし、私の事は放っておいて…

男2 仕方がないだろう、誰もが予期せぬ事態なんだ。それに女性と子供の乗客が乗り終わったら、次は君たち女子従業員の番だ。いやでもすぐにこれを着ることになる。そもそも…

女2 怖いのが水！

全員 ……

女2 甲板に立てないの私……小さい頃、井戸に落ちて、それからずつと…

告白の脱力も手伝って、椅子に座り込む女2。

女2 ……お風呂だって、シャワーしか浴びられないし、お医者さんは毎日洗面器の水を見てれば慣れるとしか言わないし……最初に何度もお願いしたんです、この船に乗る前に。絶対デッキには出なくていいから……従業員の間、部屋も窓の無い個室にするから……全然話違うし……

テーブルに伏せてしまう女2。言葉のない面々の中、先ほどのテーブル上のチップをポケットに片し、おもむろに立ち上る男4。皆が注目の中、照れながら女2の前にしやがみ込み、ゆつくりと手を握る。

女2 な、なんですか……困ります……

思わず立ち上がる女2。

男4 ああ……ごめんごめん……余りにもそつくりでさあ、妹に…

笑いを堪えるのに必死な男1。真偽に悩む男2、女5。

女2 妹さん、ですか……

男4 今ボストンで一人働いてる。旦那が事故で死んじゃってね。4歳の子供連れだな。これから僕が会いに行く予定だったんだけど……すまない。つい君を見てたら思い出しちゃって…

女2 そうだったんですか……すいません、私もつい…

男4 彼女も昔は全然水がダメだった。親父が躰代わりに水を使っていたこ

とがあつてね。

女2 ひどい……

男4 うん……でも、子供に海を見せたいって思いの方が強くなって、自分で克服したそうだよ。だからいつか君だって、きっと平気になるさ。

女2 ……そうでしょうか……

男4 それにさあ……えっと……

女2 ロレーヌです。ロレーヌ・ウオーカー。

男4 じゃあ、ロレーヌ……例えば水を嫌ってずっとココに居るだろ？ やがて船が傾いて、もの凄い水圧の水が襲ってくる。徐々に浸水するんじゃないんだ。

女2 やめて……

男4 多分、こっちの壁だね。この壁をぶち抜いて、一気に水が君を襲う。

例え誰かがそばにいても一緒だな。大きな家具に隠れても同じ事。狂った水は相手を選ばない。

女2 ……(目を閉じる)

男4 そう、そうすればいいんだよロレーヌ。頑張つてこの部屋を出たら、ずっと目をつぶってればいい。コールマンさんがちゃんと手を引いて連れてってくれる。

男2 おい。

女2 (男2に) 本当ですか？

男2 いや、その……何も心配しなくていい。

男4 ほら。

女2 ……でも……

男4 あ、そうだ、ちよつと待つて。

内ポケットから小切手を取り出し、手早くサインして封筒に入れる。

男4 君がニューヨークに付いたら、これを妹に届けてくれないかな？ 住所も入れてある。(先ほどのポンド札を握らせ) これはその手当てだ。

女2 こんなに？

男4 もし6ヶ月探してどうしても見つからなかったら、小切手も君が使つて構わない。

女2 信用するんですか？ 私なんかを？

男4 根っからのキャンブラーでしょね。

女5 コンマンだつたうの。

女2 ……分りました、私、絶対届けます。安心して……あ……

男4 よろしくね。……じゃあ、コールマンさん。

男2 承知しました……じゃあ行こうか。

女2 ありがとうございます……その……決して忘れません、貴方の事。恐縮です。

男4

男2に付き添われて去る女1。気まづい間。

女5 結婚詐欺もしてた訳？

男4 え……まさか。

女5 手を握つた上に小切手つてねえ……

男4 嫉妬してるの？

女5 まさか。で、私の説得は？

男4 全ての手を使いきました。

女5 じゃあ、どうするの？

おもむろに女5に正対する男4。ゆっくり飾らぬ声で、

男4 ボートに乗りなさい。

動揺に思わず視線を落とす女5。やがて椅子から立ち上がる。

女5 ……(笑みを装い) どうしようかなあ……

男1 じゃあ私がお相手しましょう。

男4 えっ？

女5 あら……ココに……居らしたんですか？ 何時から？

男1 もうずっと。

女5 でも……

男4 友人の、ドーベルマン・ハインリヒさんだ。

女5 あら、そうなの？

男1 ドーベルマン・ハインリヒです。

男4 ……

女5 ……どうも。

男1 私は彼のような気の利いた技は使えませんが…貴方の迷いに答えぐら
いは見出せる…勝負しますか？

女5 ……ええ。いいですよ。

男1 ただし、負けたら必ずボートに乗るとお約束ください。ああ、バンマ
スの彼を待つつてもダメです。

女5 ……いいわ。で勝ったら？

男1 彼が恥ずかしい踊りを披露します。

男4 おーい。

女5 ぜひそれで。

男4 何族だったかも忘れたよ。

女5 それと…踊りに加えてボートに乗らなくて良いという約束を。

男4 どんどん抜け目が無くなってきている。

男1 どうする？

男4 ……これもギャンブルでしょ。

男1 じゃあ、まあ…そちらで。

もう一つのテーブルに移動する3人。カードをシャフルする男1。

男1 これまたルールは極めてシンプルです。ああ、貴方もどうぞ。

勧められ、適当にシャフルする女5。男1に戻す。戻されたカード
をおどけた仕草で机上に裏向きに滑らす男1。

男1 これでよしと……えー、それでと……いいんだよな、うん。

男4 大丈夫ですか？

男1 まあまあ…後は簡単、お互いに一枚ずつカードを抜いていきます。先
に絵札…すなわちジャックかクイーンかキングをひっくり返した方が負け。

女5 エースはいいのね？

男1 どうしよう？

男4 ……そちらでも。

男1 じゃあ、Aは負けではない。

女5 了解。…どちらから？

男1 お好きなように。

女5 じゃあ…お先にどうぞ。

男1 懸命です。じゃあ…

緊迫の中、男1…セーフ。女5…セーフ、のやり取りが2回進む。
それぞれ自分で見た後、相手に提示するカタチ。3回目、先行の男
1。チラリと自分のカードを見た後、諦めの表情。

男1 (男4に) 悪い…

男4 (頭を抱える)

失望の中、「伏せたままのカード」を女の近くに滑らす。

女5 やったあ。

喜びんで男1の絵札を「ひっくり返して」確認する。

女5 (男4に) ほら。

男1 貴方の負けですね。

女5 えっ？

男1 ちゃんと最初に言ったでしょ？ 先に「ひっくり返した方」が負けだ
って。

女5 ひっくり返すって…あ！

男4 お見事。

女5 ……じゃあ、慣れない仕草もわざと？

男1 何の話かな？

女5 最高にペテンじゃないですか。

男1 存在自体がフェイクでしょ…

女5 (男4を睨む)

いや、僕は本当にハインリヒが負けたと思って…

ふと、船の上部でバンド演奏が始まる。

女5 ……

男4 バンドマスターもタイミングを心得ている。

女5 ……分りました。負けを認めます。

男1 お粗末でした。

女5 多分、いいきっかけになります。

男1 大人しくボートに乗って下さいね。

女5 いえ、もう少し大ききかけ。

男4 え？

女5 ……スリルに溢れた日々も魅力だけど、人目を気にせず笑いたいときに

思いつきり笑える暮らし…もう一度だけ頑張ってみようかなって。

男4 そう。

女5 じゃあ、切りが無いので…

男1 デツキに付いたら迷わず左舷に進みなさい。そっちの方が空いてる。

女5 ……はい。

確かな足取りで、入り口へ向う女5。

男4 あ、ちよつと待って。

自分も向かい、一旦、廊下奥へ誘う男4。一人取り残された間をダ
ーツで過す男1。納得いく時間があつて…女5、ゆっくり廊下を
逆方向に去る。やがて戻る男4。

男1 ……すいませんねえお手数掛けて。

男4 えっ？

男1 出来れば遠慮して、私が席を外すところだが…

男4 あ、いえ…せがまれて恥ずかしい踊りの触りを少し…

男1 はいはい。

男4 いやあ、助かりました。

男1 あの雰囲気のままだと彼女、ココで性的行為に発展しかねないと思

いましてね。

男4 確かに。

男1 見たくも無い。かといつてココからは出れないし。

男4 ……いろいろご苦労が多いようで…

男1 分つてました？

男4 ああ、これですか？ ええ、途中から。

男1 見よう見まねで。

男4 いやいや。なかなかの…

男1 久しぶりにドキドキした。いいもんですなあ、たまには。

男4 職業にしない限りはね。

男1 なるほど。

男4 それにしても…

ダーツボードに向かう男4。矢を3本放ちながら、

男4 嫌なモンですね、善意の行為つて。

男1 ああ、人助け？

男4 どうにも性に合わない。偽善者に成り下がった気分です。

男1 ま、人それぞれでしょうね。

男4 何なんでしょう、この不快感は。

男1 それは…貴方の防衛本能ですね。もしくは己の価値観に対するただの
執着心。

男4 上流貴族、もしくは騎士道への苦手意識？

男1 いや、もつと大きな……例えば人類愛のようなドラマツルギーへの抵
抗感でしょう。

男4 なるほど。

ダーツを差し出す男4。受け取る男1。

男1 ……間もなくデツキでは、人の生命を巡つての無数のドラマが繰り広げ
られる。エゴと英雄的行為のオンパレードですねえ。心身穏やかでなく、
顔は仏帳面してるくせに、誰かと肩が触れるたびに「これは失礼」と詫び
を入れる一等船室の紳士たち。見ず知らずの手を取って「どうぞこの御夫
人をボートに」と叫ぶ。そして、別れの力を借りて初めて愛に気づく男と
女。そうかと思えば、金をまいてでも何とか自分が助かろうと、知恵を絞

る者もいる。死を覚悟した者に、まだ賄賂が通用すると思っている。

男4 立ち会いたくないですねえ。

男1 時として前者の方が警戒に値します。愛あるドラマは事実を隠蔽する能力に優れている。

男4 何だかココが聖域のように思えてきました。

男1 ええ。ここを出たら最後、そんなモノに翻弄されて、2度と戻っては来れません。ココは境界線。ココからしか見えないモノもある。

男4 だから、そんな井手達なんですか？

男1 (微笑んで)あるいはね…：回を重ねる毎にこういう事になってきた。

男4 はあ…

ダーツを男4に渡す男1。受け取りゲームチェンジ。

男4 …：ローズは大丈夫なんですか？

男1 …：といますと…

男4 いえね、貴方は、死に行く人を選んで姿を見せてると思ひ込んでいましたから。

男1 ああ、いや、彼女は例外ですよ。さっきも言った通り…：あ。

男4 彼女は例外と…(ダーツを打ち込む)

男1 …：あ、いや…：その…

男4 (明るく振り返り) まあまあ。

もう一度チェンジ。ダーツを渡す男4。いつしか楽隊は止んでいる。

男1 …：愉快な人だ。私のような不条理な存在を、虚勢なく受け入れる。

男4 …：これは、誰も信じてくれないんですがね。4年前だったかなあ…：偶然、酒場で悪魔に出会って、魂を売った事がありましたね。以来2年間ほど負け知らず。

男1 ほう。

男4 何をやっても勝ちまくる。イカサマなんて一度も使わないのね。ドローだったら、たまにカスの手が来ても、チェンジ後にはちゃんと勝てるように揃ってる。

男1 交換しなければ？

男4 恐れをなして周りが降ります。

男1 ああ。

男4 金に不自由はしなくなったが、結局飲み代に化けて終わり。

男1 ドキドキ、ハラハラが恋しくて、って奴ですね。

男4 ええ。どうしても昔のギャンブルに戻りたかった…：大きな犠牲を払って何とか契約破棄にこぎつけました。

男1の1投目がいい音でヒットする。「x」を打つ。

男4 お見事。

男1 でも代償があったでしょう？ 契約破棄のペナルティー。

男4 ええ…：彼は2年以内に僕の命を貰い受けるそうです。それも水の術を使って。ちやうどこの春が期限でしてねえ。

男1 …：なるほど。

男4 だから、勝っても負けて構わない。今は少しでも多く、ただのゲームがしたいんですよ、僕は。

男1 …：掛け金を決めましょうか、もしくは差しでカードでも？

変らぬ、畏まった歩調で男2が入室。

男4 おやおや、てっきり身元引き請け人になられたとばかり。

男2 ボートに乗せる直前に目隠しをして、後は人のよさそうなマダムに託しました。後は…：大丈夫でしょう。

男4 惜しいことをしましたねえ、コールマンさん。せつかくの身を固めるチャンス。

男2 …：この際はつきり言っておきますが、私は貴方が嫌いです。6年前、私の店で騒ぎを起こされてからずっと。

男4 …：すいません、和み過ぎました…

男2 念のためご報告に上がったままで…：まあ、今回少だけ借りが出来ましたが…

気まずい間をめぐけて、男1が2投目。「y」をヒット。

男2 ん？…

音に反応し、ダーツ盤にゆっくり近付く男2。

男1 どうも。

男2 …ああ、これは先ほどの…

男1 どうかしましたか、それ？

男2 ああ、いえ…

男1 適当に放り込んだ数字ですが…

男2 yとx…いや、これじゃあなく…：…というか、以前にもこういう事が

あったような…

男4 既視感：デジャヴって奴ですね。

男2 運命的といえますか、魂の音、とでも…

男1 そこまで分っているなら…

男2 えっ？

男1 いい加減放っておいてくれませんか？

男2 えっと…

男1 そういう事でしょ？ 墓を荒らすと言う事は。私だって飽き飽きして

いるんだ、その度に…もう終りにしませんか？

男2 私に言っているのですか？

男1 …いや。

車椅子の背を向けて、2人から距離を取る男1。

男2 あの…

男4 どうですか？ 私と差して一ゲーム。

男2 …何を賭けて？

男4 そうですなえ…お互いの苦手意識かな。

男2 (微かに微笑んで) 無理はしない方がいい。それに、今この時を自分

の為に費やしたいのは山々ですが…：やはり職務に戻ります。

男4 残念です。ココロから。

男2 ま、自分の性分だから。

男4 はい。

去りかける男2。入り口で改めて2人に向き直り、

男2 どちら様もお命を大切に…それと…：この旅はご乗船、まことにありがとうございました。

軽く一礼。2度と視線を合わせることなく去る男2。

男4 大丈夫ですか？

男1 …ココからしか見えないモノもある。もちろん見えるだけで、何も変わりはしない。

男4 はあ…：きつとあれでしょうね、この船の事も括られるんでしょうね。文明への警鐘とかかって言葉で。

男1 これがちゃんと警鐘になっていた時代はまだまだ。やがて誰もが未来を憂えなくなる。自分達の時代が、歴史の最先端であることを忘れ、実は腹の底で思っている。「自分が生きている間、酷いことにならなきゃいや」ってね。偉い学者しかり、反戦の活動家しかり。

男4 へえ…

男1 ロマンと知的好奇心が優先され、本当に学ぶべき絶望は、深く海の底に眠ったままで。

男4 …：(ゆっくり微笑んで) じゃあ、我々は机上の世界に戻りますか。

男1 …(微笑返して) でもね。君のような男に会ったのは始めてだよ。

男4 それは、それは…

2人がテーブルに向かおうとした矢先、3等船室の男5が走り込み。入り口で足を止め、廊下奥へ叫ぶ。

男5 こつちです。ココ、ココ。…ああ、先ほどはどうも。

男1 …どうも…

視線を合わす男1、男4。やがて小走りに一等航海士の男6。

男6 おやおや皆さん。まだこちらでしたか…

男4 ええ、まあ…
男6 困りますねえ。
男4 いえ、その、
男6 甲板は猫の手も借りたいほどなのに…

と言いながら、帽子を脱ぎ、ネクタイを緩める男6。どうやら男1の姿も見えているらしい。男5、やはり落ち着きなく、今度は壁のダーツボードに近寄りしげしげ見ている。

男1 えつと…マードックさん？
男6 さ、急ぎましょう。あまり時間はないはずです。
男1 じゃあ、もしかして…
男6 今夜は絶対参加しようと思ってましたので、たとえ船長に見つかつてもね。(男5に) さあ、座って座って。
男4 (微笑んで) あなたも大した航海士だ。
男6 上流貴族なんかクソ食らえですよ。今も手渡された札束を宙に撒いてきたばかりです。
男1、4 フフ…
男6 何か？
男4 ああ、いやいや。
男6 (男5に) おい、早く席に…あ、こら、何してる？
男5 あ、ちよつと待って下さいね。

ダーツ盤を体で隠し何かコソコソ細工している男5。

男6 あ、こら、高価な備品に悪戯を…
男5 (背で隠し) あ、いえ、
男6 …(微笑んで) ま、いいか、どうせ沈むし。
ニツと笑つて作業に戻る男5。ムースを食べ出す男6。

男4 彼らも予定調和ですか？
男1 いや、私がゲームすることすら初めてだ。きつとアンタの所為ですね。

男4 うわあ、責任かんじるなあ。
男5 (席に着いて) お待たせしました。
男4 じゃあ…8縛りのドロウですが…
男6 ああ、じゃあチェック流れがあるわけね。
男4 ええ、かわりにアンティーアップが一枚。
男1 判る？
男5 ええ、もう完璧ですよ。
男6 ホントかよ…じゃあ、席決めは面倒だからいいとして…
男1 デイラーは私がやりましょう。

ゲームがスタートする。何だか嬉しそうな面々。

男5 何ゲームぐらい出来ますかねえ。
男6 心配性だと勝てないよ。
男5 あ、そうなんですか？
男4 (男6に) どうなんです？ 一等航海士としての推測は。
男6 ええ、まあ、いずれこうググツと傾きますからね、座っていられなくなるか、カードが滑り出すか…まあ、それでも遺書を書き残すぐらいの時間はあるでしょうね。
男4 遺書…ねえ…
男6 あ、でも先に停電するかもな。
男1 ハスラーのお出ました。
男4 ですから私は…あれ？

楽隊の音が復活する。遠いBGM。

男6 またはじめましたね。
男1 というか、(男4に) 長く休憩してたよね…
男4 …何です？
男1 バンマスが私用で呼び出されてたりして。
男4 ああ…(微笑んで) ああ。
男5 あれが鳴つてる間は大丈夫ですよねえ。
男6 え、何が？

男5 だって、彼らも避難するんでしょ？ ボートで。

全員 ……

男5 …あの、僕何か…

男6 (笑顔で) 続けて。

男5 ああ、はい。すいません。

男4 ……

男6 …おろかですよ。

男4 えっ？

男6 乗務員の中にも内心、この船に残って救助を待った方が懸命だって考

えてる輩がまだまだ居ますからね。

男4 ああ、なるほど。

穏やかにゲームが進行する。入り口に女1。

男4 …ああ、どうも。

女1 少し休ませてもらっていいですか？

男4 いいですけど…いいですよ、お構いしなくて。

女1 ええ…上に居ると、無理矢理ボートに乗せられそうで…

男4 なるほど…

男5 先程はどうも。

男4 えっ？

男5 ああ、いえね、さつき船長室までお連れしたもんで。

男4 ああ、なるほど。

男1 スミス船長には会えましたか？

女1 ええ、でも声は掛けませんでした。何か凄惨な形相で文章を書いていらしたの。

男6 航海日誌かなあ。

女1 いえ、何か便箋のような紙に…

男6 そうですか。

女1 …(男4に) まだやってらしたんですね…

男4 ええ…他に取り柄がないもんで。

女1 不安じゃないんですか？ 自分の運命が。

男4 運命ですか…毎日ギャンブルしていると、もっと大きな、何だろ…流

女1 れ、そう流れのようなモノが相手ですからねえ。

へえ…

ゲームは淡々と進んでいく。女1、何気なくダーツボードに視線。やがて盤上に何かを見つけ、思わず歩み寄る。

女1 これは…

男4 何です？

女1 この傷は、確か…

男5 ああ、すいません、それ僕です。

女1 えっ？

男5 この船に乗った記念に、ちよつと自分の痕跡を。

男6 こら。削ったのか、お前。

男5 すいません。

女1 ……もしかしてn月m日？

男5 ええ。

女1 …誕生日だったのね、貴方の。

男4 それが何か？

女1 …ああ、いえ…

時代を超えて暴走する知的好奇心の空しさを目の当りにし、シヨックを隠せぬ女1。疲れた足取りでもう一つのテーブルに向かい、腰を下ろす。

男6 でも奇遇だなあ。n月m日って言えば、昨年この船の姉妹船オリンピックが、〇〇〇で×××××を起こした日だよ。

男5 何ですそれ？

男6 …あ…いや、いい。

因みに「n」「m」は冒頭に男1がダーツで打ち込んだ数字であり、ステージ毎に異なる。男6がココで話すエピソードは、それを受けての当時の史実(結構細かい年表による)を使う。つまり芝居が始まり「n」「m」が決まってから、2行ほどの台詞が作家によって

書く下され、何らかの手段で役者に伝えら、比較的出番の少ない男6は、芝居の進行中に覚える訳である。ある種「演劇でしか出来ない」「悪乗り、遊び……ささやかな実験である。」

男5 あのお。
男6 今度は何？
男5 いえ……その、これって何を賭けているんでしょうか？
男6 えっ？

暫し全員の手が止まる。

男5 あ、僕また何か変なことを？
男4 いや……（微笑んで）とってもいい質問だ。
男5 そうですかあ。
男6 確かに大金を放り投げてきた身としてはなあ……
男1 運命とか、人生とか？
男6 恐怖とか、苦痛とか？
男4 いや、やっぱ金でしょう。……（男5に）ギャンブルだからね。
男5 ……はあ……？

怖くてレート聞けない小心者の男5。無言で続くゲーム。いつしか女1はテーブルに伏せて眠っている。

男6 ……SOSの意味って知ってます？
男4 何ですそれ？
男6 ああ、そうか、公海上で使われる共通の救難信号でしてね。
男4 え、でもそれって確かCQDとかじゃ？
男6 ええ、SOSが使われ始めたのが最近で、意外に実際に使ったのはこの船が初めてかも知れないですよ。
男5 へえ。
男1 で、そのSOSが何か？
男6 覚えやすいでしょ？ モールスも聞き取りやすいし。
男1 まあ、そうですね。

男4 それで？
男6 ええ。頭文字なんですよ。セイブ、アワ、ソウル。

一瞬、空気が止まり、楽隊の音楽が時間を支配する。目を合わせ、ゆっくり微笑み合う男1と男4。再びゲームが静かに再開される中、ふっと暗転。楽隊の演奏。やがて浸水、爆発……そして沈没。

【SCENE/3】 暗いままの舞台。ゆっくりと消え行く楽隊の調べの中、誰かが船長スミスの遺書らしきモノを読んでいる。

男2 ……なぜ船は来ない。約束の船は。私が性急だったのか？ 多くの人々を巻き添えにするほど私は勇敢な人間ではない。少しだけ計画が狂ったのだ。

絞った明かり。入り口に男2。一見、豪華客船の給仕長そのもの。

男2 ……誰が当事者で、誰が仲間はずれだったのか？ 私は至って正常である。では一体、誰の差し金で冰山はこの場所に浮いていたのか？ 何かが狂いだして来ているのか？ 誰の思い付きなのか？ 与えられし死に場所としては感謝しよう。せめてこれが、本当の処女航海であったならば、少しは諦めもつこうというものを……

部屋に入る男2。前のシーンと同じ椅子で、女1はまだ眠っている。そして男1も存在している。男2、女1の背に毛布を掛ける。そしておもむろに、スミス船長の遺書に火を付ける。一瞬にして燃え尽きる遺書。ゆっくり覚醒する女1。

男2 ……悪い悪い、起こしちゃったかな？
女1 ……先生……私……
男2 「無理も無い」
女1 えっ？

男2の「聞きなれない口調」に違和感を持つ女1。彼にその自覚が

あるか否かすら不明なほど、微妙に共存しているのだ。

男2 …いや、徹夜の分析で無理させてるからね…

女1 はあ。

男2 ねえルース。やっぱココは深いねえ。

女1 ……

男2 調べれば調べるほど、謎はむしろ深くなる。いつか、いとも簡単に船ごと引き上げてくれる日が来るまでは…

女1 引き上げたら引き上げたで、より判らなくなるんじゃないでしょうか？！

男2 ルース。

女1 先生も行かれたんでしょ？

男2 ……「何のことかな？」

女1 そういう事でしょ？ 船を上げると言う事は。

男2 ……

女1 ……すいません。

男2 いや…次の潜水日程が決まったよ。スポンサーも大手が動いてくれそうだから。

女1 先生…

男2 君に無理強いはしない。でも僕は抗うことはできない。悪魔に魂を売ってでも…強いて説明するならば、性分だな、僕の…

男1のダーツが的を射る。その音に反応する男2。

男2 …ああ、大変申し訳ないが、もう見学の時間は…貴方…失礼ですが以前何処かで…

男1、全霊を込めて2本目のダーツを盤上に叩き付ける。女1、男

2の視線がダーツに釘付けに。男1、ゆっくり振り返るが、2人は

2度と動きを再開しない。不動の絶望が部屋を支配し、やがて暗転。

(終演)

参考文献

「タイタニックは沈められた」

ロビン・ガーディナー&ダン・ヴァンダー・ヴァット著、

内野儀訳、集英社